



**Data** 2022-1

監督: マシュー・ヴォーン

出演: レイフ・ファインズ/ハリス・ディキンソン/リス・エヴァンス/ジェマ・アータートン/チャールズ・ダンス/マシュー・グッド/トム・ホランダー/ジャイモン・フンスー/アーロン・テイラー＝ジョンソン

## 👁️👁️ みどころ

コメディよりシリアスな“スパイもの”の方が好きな私は、このシリーズはどうも……。第2作でその思いを強くしたが、“民間スパイ組織”の“誕生秘話”は意外にシリアス……？

本作を観れば、第1次世界大戦の全体像とラスプーチン、マタ・ハリら著名人の活躍ぶりが早わかり！？

憲法9条を守れ！だけの平和主義者だった主人公は、世界大戦を企む“悪の教団”＝“羊飼い”と対決する中で、いかなる変身を？なるほど、これがキングスマン！

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□■ シリーズ第3作は“民間スパイ組織”の誕生秘話！ ■□■

コリン・ファースの主演で『キングスマン』（14年）が登場した時は、“ぶっ飛びスパイ映画”の面白さを堪能した（『シネマ37』213頁）が、続編『キングスマン ゴールデン・サークル』（18年）はあまりの馬鹿馬鹿しさにうんざり（『シネマ41』未掲載）。したがって、シリーズ第3作を鑑賞すべきかどうかは迷ったが、レイフ・ファインズの主演と歴史上の著名人を多数登場させた“キングスマン誕生秘話”となれば、本作は必見！

冒頭の舞台は南アフリカ。時は1902年、日本は日露戦争前夜だが、この時代のイギリス（大英帝国）は南アフリカでボーア戦争を繰り広げていた。そんな戦争の現地の視察に訪れた、名門貴族のオックスフォード公（レイフ・ファインズ）の立場は「戦争は絶対ダメ」というもの。これは、今の日本の「憲法9条を守れ」と同じような立場で、当時の彼は赤十字の仕事でリードする平和主義者だったから、あえてそんな戦場に妻と幼い息子コンラッドを同伴させていた。ところが、来襲した敵軍の銃弾によってあえなく愛妻が死亡、妻は「どうかあの子を守って。もう二度と戦争を見せないで」と言い残し、オックス

フォード公もそれを妻に約束したが、それから12年後の1914年、全ヨーロッパにはキナ臭い空気が・・・。

## ■□■第一次大戦の引き金は？英・独・露のリーダーは？■□■

第二次世界大戦は1939年9月1日、ナチス・ドイツを率いるヒトラーが突然ポーランドを侵攻したしたことによって始まったが、第一次世界大戦の引き金になったのは、1914年6月28日に発生した、オーストリア＝ハンガリー帝国のフランツ・フェルディナント大公夫妻の暗殺事件。その実行犯はセルビア独立を目指す活動組織のテロリストであるヴリロ・プリンツィプ（ジョエル・バズマン）だが、その動機は？この男の所属は？

第一次世界大戦は海でも陸でも国家間の消耗戦、総力戦になったが、エーリヒ・マリア・レマルクの小説『西部戦線異状なし』に代表される、“塹壕戦”の悲惨さは想像を絶するものになった。『戦火の馬』（11年）（『シネマ28』98頁）はそれを正当に描いた名作だが、本作でも成人したコンラッド（ハリス・ディキンソン）が父親の反対を押し切って軍隊に入り、張り切って最前線の塹壕戦に挑む姿が登場するので、それに注目！

他方、ナポレオン全盛時代のヨーロッパは、ナポレオンの身内ばかりがヨーロッパの国々を席卷したが、第一次世界大戦の時代は、①イギリス国王ジョージ2世、②ロシア皇帝ニコライ2世、③ドイツ皇帝ヴィルヘルム2世の3人が従兄弟関係にあったところがミソ。彼らが仲良くそれぞれの国を治めれば何の問題もなかったのだが、身体的なことから、従兄弟であるジョージ5世やニコライ2世に劣等感を持つヴィルヘルム2世は、ヨーロッパ各国から距離を置く一方で軍隊の増強を図っていたから、いずれ・・・。

## ■□■ラスプーチン、マタ・ハリ等の著名人が次々と！■□■

私を含めて、当時の歴史に詳しい人は、①ロシアの怪僧ラスプーチン（リス・エヴァンス）、②謎の女スパイ、マタ・ハリ（ヴァレリー・パフナー）は超有名。彼らがそれぞれ果たした役割はよく知られているが、本作の監督・原案・脚本・製作を担当したマシュー・ヴォーンは、本作にそんな歴史上の著名人たちを次々登場させたからビックリ！他方、1962年から50年間、計25作も続いている『007』シリーズは奇想天外な発想で、凶悪かつ強力な悪の組織を次々と登場させてきたが、本作で世界大戦の火種を作ろうと暗躍している悪の組織は“羊飼”率いる“闇の狂団”だ。

本作によると、前半のストーリーで大活躍し、オックスフォード公や息子のコンラッドと華麗なアクションを演じる怪僧ラスプーチンも、単なる将棋の駒らしい。また、私は“美貌の女スパイ”マタ・ハリの活躍舞台はバリだとばかり思っていたが、何と、彼女はアメリカに渡り、時の大統領ウィルソンにハニー・トラップを仕掛けたそうだからビックリ！しかし、このマタ・ハリも単なる将棋の駒らしい。しかして、彼らの背後で“闇の狂団”を操る“羊飼”とは一体誰？

## ■□■陸軍元帥キッチナーに注目！この男も実在の人物！■□■

『キングスマン』シリーズは第1作も第2作も“師弟モノ”だったが、本作は“父子モ

ノ”。コンラッドの生みの母親は冒頭で死んでしまったが、それから12年後の今、成長したコンラッドを鍛えているのは、かつてアフリカの戦士だったオックスフォード公の右腕・ショーラ（ジャイモン・フンスー）とスパイ組織を支える無敵の女執事・ポリー・ワトキンズ（ジェマ・アータートン）の二人だ。父親の薫陶だけでなく、こんな二人から良き教育を受けてきたコンラッドが立派に成長したのは当然だが、聖壕戦での彼の活躍と悲惨な結果については、あなた自身の目でしっかりと。

本作ではどうしてもラスプーチンやマタ・ハリに目が奪われがちだが、ストーリー構成上重要なのは、高級テラー「キングスマン」でオックスフォード公と会談し、オーストリア＝ハンガリー帝国の皇位継承者フランツ・フェルディナント大公の護衛を依頼するキッチンナー（チャールズ・ダンス）の役割。このキッチンナーは数々の勲章を受賞している陸軍元帥で、軍隊の兵士募集のポスターにも写真が使われる名士だそうだが、残念ながら、ラスプーチンやマタ・ハリほど有名ではないから私は知らなかった。しかし、本作では、この男の役割に注目する必要がある。

また、会談の席にキッチンナーが副官として連れてきたのが、側近のモートン（マシュー・グード）だが、この名前は本作ではじめて登場するものだ。さらに、映画は作り物だから、どこまでがホント？どこまでがウソ？かは脚本家の自由。しかして、本作ではその見極めが難しいので注意が必要だ。

## ■□■ “羊飼”とは？闇の狂団とのアクションに注目！ ■□■

本作では、ラスプーチンやマタ・ハリを将棋の駒のように操っている“闇の狂団”のリーダーたる“羊飼”の正体が長い間明かされないままストーリーが展開していくところがミソ。他方、“羊飼”の根城は容易に人が近づけない山の上に置かれていたが、飛行機ならそこへの接近は可能。しかして、当時やっと実用化されつつあった飛行機の操縦もお手の物のオックスフォード公が考えついた“羊飼”攻略作戦とは？そして、1941年12月8日の日本軍による真珠湾奇襲攻撃にも匹敵する（？）、オックスフォード公、ショーラ、ポリーの3人が総力を挙げて展開する“羊飼”攻略作戦と、そこでやっと明らかにされる“羊飼”の正体とは・・・？

日本のアクション俳優の代表は2021年8月19日に死去した千葉真一だが、香港アクションの代表はジャッキーチェン。また、ハリウッド映画では、アーノルド・シュワルツェネッガーやシルベスター・スタローンが代表だが、近時はリーアム・ニーソンが「96時間」（08年、12年、14年）シリーズ等のヒットでアクション俳優の仲間入りを果たしている。本作で主演のオックスフォード公を演じるレイフ・ファインズは、名作『イングリッシュペイシェント』（96年）で私がファンになったイギリスの演技派俳優で、1962年生まれだが、このリーアム・ニーソンと同じように、本作ではキレキレのアクションを。前半ではラスプーチンとの剣での対決が見ものだが、クライマックスでは、悪の狂団＝羊飼いと最終対決で、次から次へと年齢には似ても似つかないような華麗かつキ

レキレのアクションを繰り広げるので、それに注目！

2022（令和4）年1月13日記